



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

Examination of intellectual function and individual profile of children with Down's syndrome: Longitudinal analysis for 6 years in elementary school.

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-07-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山口, 遼, 橋本, 創一, 李, 受眞, 田中, 里実, 井上, 剛, 大伴, 潔 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00173409

ダウン症のある児童の知的機能と個人内プロフィールに関する検討 —— 小学生段階6年間による縦断的分析 ——

山口 遼*・橋本 創一**・李 受眞***・

田中 里実****・井上 剛*****・大伴 潔*****

本研究は、児童期ダウン症児の知的機能の発達、個人内プロフィールの類型化とその変化の特徴を明らかにすることを目的とし、18名の田中ビネー知能検査Vの結果を用いて縦断的研究を行った。その結果、児童期ダウン症児の知的機能は、緩やかに発達することが分かった。また「知覚運動」は相対的に良好な成績を示す知的カテゴリーであり、「文章理解・類推」「数概念」は相対的に低い成績を示す知的カテゴリーであると示唆された。第2・5学年の個人内プロフィールを類型化すると、知的カテゴリーの通過率の高低により2つずつのクラスターが抽出された。多くの先行研究で、「記憶」に関してダウン症児は相対的に低い成績であるとされている。しかし、対象児によっては異なる様相を表すことが示唆された。個人内プロフィールの変化について、学年上昇による変化は認められなかった。今後の課題として、精神年齢を考慮して対象者数を増やすこと、幼児期や青年期以降も含め知的機能や個人内プロフィールを検討することが必要である。

Key words

ダウン症, 児童期, 知的機能, 個人内プロフィール, 縦断的研究

*東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科

**東京学芸大学特別支援教育・教育臨床サポートセンター

***東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科

****東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科

*****東京学芸大学特別支援教育・教育臨床サポートセンター

*****東京学芸大学特別支援教育・教育臨床サポートセンター